

新入生向け

2023

クォータ科目の学び方

～英語・数学・物理クォータ科目履修ガイド～

クォータ科目は全部で16種類あるぞ

教養科目

- ものづくり基礎実習Ⅰ
- ものづくり基礎実習Ⅱ

言語系科目

- 基礎英語Ⅰ
- 基礎英語Ⅱ
- リーディングスキルⅠ
- リーディングスキルⅡ

英

理数系科目

数

- 基礎数学Ⅰ
- 基礎数学Ⅱ
- 数学
- 応用解析

- 工学基礎物理
- 物理Ⅰ
- 物理Ⅱ
- 工学基礎物理実験

物

- 化学Ⅰ
- 化学Ⅱ

この冊子では
英語・数学・物理のクォータ科目（講義科目）の
授業の進め方、履修上の注意点について
解説します。分からない点はクォータ運営室に
問い合わせましょう。

これら以外のクォータ科目については、
学生便覧やガイダンスでちゃんと理解しましょう。
分からない点は担当教員に問い合わせましょう。

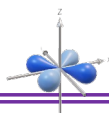
クォータ運営室
問い合わせ先メールアドレス



クォータ科目の履修に
関する内容は、
クォータ運営室に
メール（Outlook）で
問い合わせてください。

9fa27043.nitay.onmicrosoft.com@apac.teams.ms

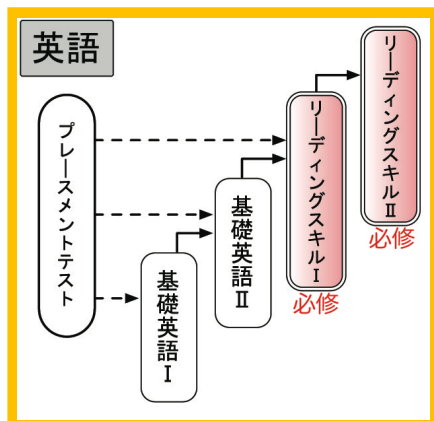
クォータ科目の概要



『クォータ』は英語で『4分の1』を意味します。『クォータ科目』は、1年を4つに区切ったそれぞれの期間で開講される科目を指します。

講義科目では、言語系科目の英語と理数系科目の物理・数学・化学があります。演習・実験科目では、理数系科目の「工学基礎物理実験」と教養科目の「ものづくり基礎実習」があります。

この冊子では、英語・数学・物理の講義科目について説明しますので、ここで使う『クォータ科目』は、これらの科目群を指します。

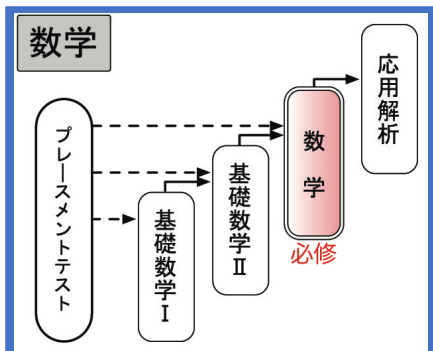


最初に履修する科目

プレースメントテストの結果により
「基礎英語 I」「基礎英語 II」
「リーディングスキル I」のいずれか。

必修科目

「リーディングスキル I」と
「リーディングスキル II」

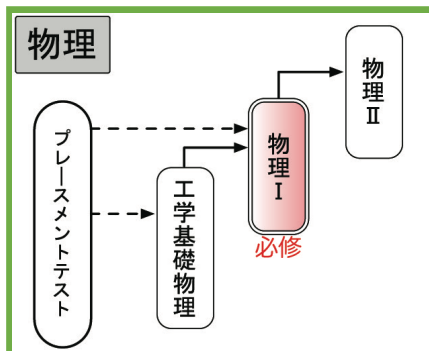


最初に履修する科目

プレースメントテストの結果により
「基礎数学 I」「基礎数学 II」
「数学」のいずれか。

必修科目

「数学」



最初に履修する科目

プレースメントテストの結果により
「工学基礎物理」「物理 I」の
いずれか。

必修科目

「物理 I」

必修科目までの履修登録について

クォータ科目では、**入学時に受験するプレースメントテストの結果により、第1クォータで履修する科目が決まります。**

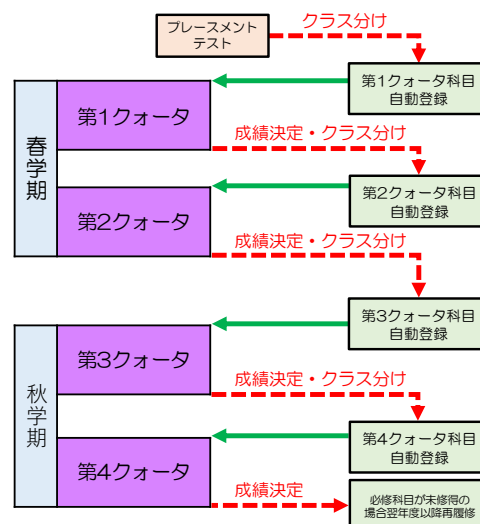
その科目に合格すると、次の段階の科目に進むことができます。必修科目に合格するまでは自動的に履修登録されます。

春学期の履修登録期間には、第1・第2クォータ、秋学期の履修登録期間には、第3・第4クォータの履修科目が正しく登録されているかポータルサイトで確認しましょう。

選択科目の履修登録について

選択科目の「応用解析」「物理 II」は、履修登録期間中に**自分で履修登録をする**必要があります。第1（第3）クォータで必修科目が登録されており、合格後に第2（第4）クォータで「応用解析」や「物理 II」の履修を希望する場合、春学期（秋学期）の履修登録期間に選択科目の登録を行ってください。

第1（第3）クォータで必修科目が不合格であった場合、第2（第4）クォータの選択科目は、**自動的に必修科目で上書きされます。**



物理のプレースメントテストの結果が良かったのに第1クォータの履修が「工学基礎物理」？

物理科目の学修を進めるためには、数学の基礎の修得が前提条件となります。そのため、数学のプレースメントテストの結果で第1クォータの履修科目が「基礎数学 I」となった場合は、物理のプレースメントテストの結果に関わらず「工学基礎物理」からスタートします。また、高校で物理を履修していない場合も、プレースメントテストの結果に関わらず「工学基礎物理」からのスタートになります。

プレースメントテストで指定されていない科目は履修できる？

プレースメントテストの結果で決められた科目の、前の段階／次の段階の科目から第1クォータの履修をスタートすることはできません。プレースメントテストで免除になった科目や、既に修得済みの科目を履修することもできません。

クォータ科目に合格したら？不合格だったら？

各クォータが終了するとすぐに成績が出ます。第1クォータの履修科目に合格したら、第2クォータでは次の段階の科目に進みます。不合格なら合格するまで第2クォータ以降も同じ科目を履修し直します。各教科の必修科目が合格するまで履修科目が自動的に更新されます。第1クォータが終了したら第2クォータで履修する科目が正しく登録されているかポータルサイトで確認しましょう。

授業の進め方



『履修の機会を増やし、繰り返し学修することで基礎学力を定着させる』がクォータ科目のコンセプトだ。



- ✦ 授業はセメスター科目同様、全部で14回あります。
- ✦ クォータ科目の期間はセメスターの半分なので、**週2回（火曜日と金曜日）授業があります。**
- 📖 英語は第4回、第7回、第10回、第13回授業でテスト（合計4回）があります。
- 📘 数学は偶数回授業に小テスト（合計7回）があります。
- 📗 物理は奇数回授業に小テスト（合計7回）があります。また、「工学基礎物理」「物理Ⅰ」では第14回授業に総合理解度チェックがあります。

クォータ科目の1週目と2週目のスケジュール

	月	火	水	木	金
1週目		第1回授業(4/11) 📗 【物理】第1回小テスト			第2回授業(4/14) 📘 【数学】第1回小テスト
2週目		第3回授業(4/18) 📗 【物理】第2回小テスト			第4回授業(4/21) 📘 【数学】第2回小テスト 📖 【英語】第1回テスト

テストは週に2回、多い週で3回実施されるぞ。月・水・木や週末を利用して計画的に学修を進めよう。2年からは専門科目の履修がスタートするから、**1年で必修科目を全てクリアできるよう頑張ろう！**

- ✓ クォータ科目の授業は、クラスごとに座席が指定されています。
- ✓ 各クォータ開始前に、Outlook（メール）で履修する科目、教室、座席表が通知されます。
- ✓ 第1回目の授業では、自分が履修する科目、教室、座席を間違えないよう、通知をしっかりと確認しましょう。
- ✓ 各クォータ開始前の通知には、授業開始前に準備しておくべきことが記載されています。各科目の指示に従ってください。

必ず毎日チェック！

- ✦ ポータルサイトで重要な連絡事項を通知します。
重要な連絡事項・・・テスト（再試験含む）に関する連絡など
- ✦ Microsoft Teamsを利用し、授業資料の配信や授業の諸連絡を行います。
授業資料の配信・・・ワークシート、練習問題、授業動画など
諸連絡・・・授業の補足・お知らせ、教室変更、追試験に関する連絡など
※クォータ運営室や担当教員からチャットで連絡をすることがあります
※学生からの問い合わせにもチャットを利用することができます
- ✦ Outlookを使い、大学のメールアドレスで連絡を行います。
メールを使った連絡・・・クラス分け、座席表、フィードバックに関する連絡など
※学生からの問い合わせにもメールを利用することができます



テストについて



英語

テスト回数

第4回、第7回、第10回、第13回授業で実施する合計4回のテスト。

問題数/解答時間

各テスト20～30問/25～40分。

テスト範囲と実施時間

直近2回分の内容から出題し、授業中盤に実施。

数学

テスト回数

偶数回授業で実施する合計7回の小テスト。

問題数/解答時間

各小テスト10～15問/25分。

テスト範囲と実施時間

直近2回分の内容＋それ以前の内容（復習問題）から出題し、授業後半に実施。

物理

テスト回数

- 奇数回授業で実施する合計7回の小テスト。
- 第14回授業で実施する総合理解度チェック1回。（「物理Ⅱ」では総合理解度チェックの実施なし。）

問題数/解答時間

- 各小テストは6問/15～20分。
- 総合理解度チェックは全20問/30分～50分

テスト範囲と実施時間

- 小テストは直近2回分の授業内容から出題し、授業開始時に実施。
（例）第3回授業開始時に実施する第2回小テストは、第1回・2回の授業内容。
※ 第1回小テストのみ第1回授業の内容が範囲で、授業後半に実施する。
- 総合理解度チェックは第1回～第14回の授業内容から出題し、授業後半に実施。



テストの点数でその科目の合否が決まるぞ。試験範囲をよく確認しテスト対策をするんだ。ただし、出席日数が足りていないと成績評価がされない。詳しくは次のページの『欠席について』をチェックしてくれ。

テスト受験上の注意点

- ✖ 全てのテストはマークシートによる選択式です。テストの際は**必ず鉛筆がシャープペンシルを持ってきてください。**
- ✖ マークシートには、学籍番号をマークする欄があります。これをマークミスすると**解答が合っても点数が0点となります。**
- ✖ 教室には時計がありませんので、腕時計でテストの残り時間を確認してください。解答時間半分経過時、テスト終了5分前には教員からアナウンスがあります。
- ✖ 不正行為（スマホやウェアラブル端末の使用、カンニングなど）は厳しく罰せられ、**単位修得ができなくなります。**

テストのフィードバック

- ✖ 全てのテストにはフィードバックがあります。（物理の『総合理解度チェック』にはありません）
- ✖ フィードバックで以下のことを確認できます。
 - どの問題が正解でどの問題が不正解であったか。
 - 間違った問題を理解し直すために、教科書、問題集、ワークシートのどこを復習するべきか。
- ✖ フィードバックに記されたアドバイスに従い、間違えた問題のおさらいをし、疑問点をなくしておきましょう。

【フィードバック確認方法】

【クォータ科目フィードバック資料】999Y001

学籍番号：
999Y001

クォータ科目フィードバック資料：

999Y001

こちらからもクォータ科目のフィードバック内容が確認できます。

日本工業大学
クォータ科目フィードバック

クォータ運営室からこのようなメールが大学のメールアドレス（Outlook）に届きます。メールの指示に従いリンクを開いてフィードバックを確認してください。

欠席について



- ✖ 全14回の授業のうち10回以上出席していないと成績評価の対象となりません。
したがって、**5回以上欠席すると、その科目は不合格となり成績には『/』と表記されます。**
- ✖ ポータルサイトで自分の出欠状況を確認することができます。

ポータル

クラスプロフィール

マイステップ

マイデータ

- 成績照会
- 学生時間割表
- 学生出欠状況確認
- 課題提出
- QA
- 学籍情報照会

曜日時限	授業コード	科目名	出席率	1回	2回	3回	4回	5回	6回
月2	110X101	生理学	-	出欠管理されていません					
月4	110X104	音楽	40%	○	×	×	休	○	
火1	110X201	英語 I	80%	○	○	○	×	○	
火2	110X202	地理学	-	出欠管理されていません					
火3	110X203	社会学	-	出欠管理されていません					
水4 水5	110X314	情報リテラシー	-	出欠管理されていません					

○：出席 △：早退 △：遅刻 ×：欠席 -：欠欠 休：休講 /：未実施

【出欠状況確認方法】

ポータルサイトの
『マイステップ』→
『学生出欠状況確認』から
チェックすることができます。



※これは一例ですので実際に本学で開講されている授業名とは異なる場合があります

やむを得ない事情で欠席してしまった

※ やむを得ない事情とは、病気・怪我、忌引などを指します。

- ✖ 『欠席届・追試験（指定クォータ科目対象）』を共通教育学群事務室（2号館2-172室）に提出する。

※ 指定クォータ科目（英語・数学・物理）以外では各担当教員に『欠席理由書』を提出します。

※ 「工学基礎物理実験」も担当教員に『欠席理由書』を提出します。

- ① 『欠席届・追試験』をポータルサイトの『まとめサイト』等からダウンロードする。
- ② 『欠席届・追試験』を印刷し必要事項を記入する。
- ③ 『欠席届・追試験』と欠席理由を証明する書類の2点を、共通教育学群事務室に提出する。
- ④ 欠席理由の正当性を判断し、理由が承認された場合、その欠席が出席扱いとなる。

- ✖ テストの日に欠席した場合は、『欠席届・追試験』の提出と同時に『追試験』の仮予約を行う。

追試験について

- ✖ テストが実施される回の授業を欠席してしまった場合に、後日受験し直すテストを『追試験』といます。※ 第2・第4クォータの後に実施される『再試験』とは異なります。
- ✖ 成績処理の関係上、第13回、第14回授業で実施されるテストについては、原則『追試験』は実施しません。
- ✖ 『追試験』は、欠席し受験できなかったテストと同様の形式で、同様の条件で受験します。受験会場は共通教育学群事務室（2号館2-172室）です。
- ✖ 『追試験』の受験には予約が必要です。
 - ① 『欠席届・追試験』を共通教育学群事務室に提出する際に、仮予約を行う。
 - ② 欠席理由が認められると予約が確定し、クォータ運営室から、Microsoft Teamsのチャット機能を通じて【追試験実施日時決定のお知らせ】が届く。
 - ③ 指定された日時で追試験を受験する。
 - ④ 追試験の点数が欠席したテストの点数となる。



授業には毎回出席すること！

クォータの授業は週に2回。

授業の進みが速いので、1回の欠席がテストの点数に大きく影響するぞ。

また、『欠席届・追試験』で認められない欠席（例：3親等以外の葬儀、証明書が発行できない体調不良など）の発生に備え、サボり・寝坊などによる欠席はしないこと！

欠席した授業内容は配信教材を使って学修せよ！

Microsoft Teamsで配信されている授業資料や教科書、問題集、ワークシートを活用し、自己学修をすることで遅れを取り戻そう。どうしても分からない内容については、学修支援センターで質問をしよう！

成績評価の方法

A

B

C



英語

合格の基準

全4回分のテストの結果に基づいて総合得点を求め、100点満点中60点以上を合格とします。

合格の秘訣

どの科目も、授業の内容をしっかりと復習し、語彙・文法・読解力を総合的に身につけるのが合格の秘訣です。

わからないところは遠慮なく授業中に質問して、疑問を残さないようにしましょう。

- ・「基礎英語Ⅰ」は、語彙と短文を使った基本文法が出題されます。

テキストの各ユニットに出てくる単語と文章を集中的に練習し、身につけましょう。

- ・「基礎英語Ⅱ」は、語彙と基礎文法に加え、2段落分の英文が出題されます。

各ユニットの語彙・文法をしっかりと身につけ、長文の最初2段落を暗記するほど読み込みましょう。

- ・「リーディングスキルⅠ」と「リーディングスキルⅡ」は、語彙・文法・長文が出題されます。

長文から効率よく必要な情報を取り出せるよう、ポイントを押さえた読解スキルを

身につけましょう。

数学

合格の基準

全7回分の小テストの結果に基づいて総合得点を求め、100点満点中60点以上を合格とします。

合格の秘訣

- ・7回の小テストの点数で合否が決まるので、しっかり準備をした上で小テストに臨みましょう。

- ・小テストへ臨むにあたり、問題集のテスト範囲を繰り返し解き、理解を深めてください。

- ・分からないところがあったら、授業ノートや解答集を見直そう。

それでも分からない場合は、積極的に教員へ質問をし、苦手分野をなくすよう努めよう。

- ・小テストの後は必ずフィードバックを確認し、自分の得意・不得意分野を把握しよう。

物理

合格の基準

全7回分の小テストと総合理解度チェックの結果を総合的に集計・評価し、100点満点中60点以上を合格とします。※「物理Ⅱ」は小テストのみで評価します。

合格の秘訣

- ・各小テストの前日までに必ず試験範囲を振り返り、問題を解き直してください。

何の対策もせずに小テストを受験することはやめましょう。

- ・Microsoft Teamsで公開している、ワークシートの詳細解や授業動画を活用し、授業内容の疑問点が残らないようにしておきましょう。物理は基礎の積み重ねが大切です。前半でつまづくと後半の授業についていけなくなります。

- ・小テストの後は必ずフィードバックを確認し、自分の苦手範囲を把握、復習するのに役立ててください。

第14回授業で実施する総合理解度チェックでは、1～14回授業の内容が試験範囲となりますので、各小テストの復習をきちんと行うことで高得点を狙うことができます。

!! フィードバックを確認して合格点が取れているようだが不合格だった

!! 次のクォータの科目は「〇〇」のはずだけど「●●」になっている

こういう場合は、教務課で『疑義照会』という手続きができるぞ。

成績や科目に誤りがあると思ったら『疑義照会』期間中に手続きを行おう。

ただし、「全ての授業に出席した」「全てのテストを受験した」だけでは合格とはならない場合がある。

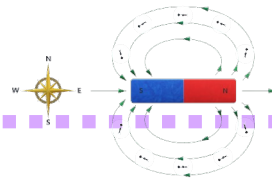
上記の『合格の基準』をしっかりと確認してくれ。出席日数が足りていることは前提条件。

その上で受験したテストの点数によって成績が決まるんだ。

出席日数はポータルサイトで、テストでの正解・不正解はフィードバックを確認することで把握できるぞ。『疑義照会』の前にまずはこの2点をチェックしてくれ。



再試験について



- 合格点に達しなかった学生のうち条件★を満たす者を対象とし、第2クォータ、第4クォータ終了後に実施される試験を『再試験』と言います。

★条件 >>> 第2クォータ、第4クォータの点数が一定の基準を満たしており、かつ授業の出席回数が10回以上である。

- 第2クォータ後に実施する科目 >>>

「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」「基礎数学Ⅰ」「基礎数学Ⅱ」「工学基礎物理」

- 第4クォータ後に実施する科目 >>>

「リーディングスキルⅠ」「リーディングスキルⅡ」「数学」「物理Ⅰ」

- 『再試験』の対象者には、第2クォータ、第4クォータ終了後にポータルサイトで通知されます。
- 『再試験』の受験には申し込み手続きが必要です。また、『再試験』の受験は有料です。



※ 赤枠の2つの手続きをしないと再試験を受験できません。

再試験の対象者になったら

- 『再試験』の対象者に送られる通知には以下の内容が含まれます。
 - ① 再試験の手続き方法
 - ② 補講と再試験のスケジュールおよび教室
- 『再試験』の受験前に、教務課の証明書発行機で受験料の支払いと再試験受験願の発行、そして、共通教育学群事務局で受験者登録の手続きを行います。
- 『再試験』の受験に際し、原則的に、『再試験』対策に特化した補習に参加する必要があります。再試験は、授業で扱った全ての内容が試験範囲となります。問題数も多くなりますので、きちんと授業内容を復習し疑問点をなくした状態で受験してください。
- 『再試験』で合格点に達すると、その科目の評価が合格（C評価）となります。成績は春学期、秋学期のセメスター科目と同時に発表されます。

その他クォータ科目について

物理クォータ実験科目

「工学基礎物理実験」（必修科目）

履修方法

学科ごとに履修するクォータが決められています。必修科目ですので、自動で履修登録されます。履修登録期間中に、ポータルサイトで登録されていることを確認してください。

また、Teamsの登録もされます。※ 第3、第4クォータに指定された場合は、秋学期の履修登録画面で確認します。週1回、2時限連続の授業です。

「工学基礎物理実験」の合格の秘訣

毎回きちんと出席して実験を行い、結果や考察をまとめた実験報告書を提出しましょう。

実験の前には予習レポートを必ず提出してください。予習レポートの提出がされていないと、実験を行うことができません。

化学クォータ科目

「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」（応用化学科は必修科目）

履修方法

「化学Ⅰ」は第1・第3クォータに、「化学Ⅱ」は第2・第4クォータに開講され、いずれも選択科目です。履修する順番はどちらからでも構いません。

応用化学科はこれら2科目も必修科目となっており、2年⇒3年の進級要件です。

進級要件について



学年 進行		基幹工学部	先進工学部	建築学部
2年 ↓ 3年	学部共通の進級要件科目	<ul style="list-style-type: none"> 応用化学科は「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」を修得していること 		
3年 ↓ 4年	総修得単位数	<ul style="list-style-type: none"> 108単位以上（教職に関する科目、及び自由科目を除く） 		
	学部共通の進級要件科目	<ul style="list-style-type: none"> 必修科目「リーディングスキルⅠ」「リーディングスキルⅡ」「数学」「物理Ⅰ」「工学基礎物理実験」を全て修得していること 		

✳ 進級要件のうちクォータ科目に関連する部分のみピックアップしました。上記の進級要件の他に、修得単位数や学科別の進級要件も設定されています。学生便覧で確認してください。



手続き・相談窓口

※ 一般的な窓口対応時間は、月～金 9:00 - 17:00です

名称	場所	内容
共通教育学群事務室	① 2号館1階（2-172室）	<ul style="list-style-type: none"> 『欠席届・追試願』提出 追試験申し込み手続き
学修支援センター	② 5号館1階	<ul style="list-style-type: none"> 学修相談（※10:00から）
英語教員研究室	③ W1棟2階	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の相談（オフィスアワー）
数学教員研究室	③ W1棟2階	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の相談（オフィスアワー）
物理教員研究室	④ E24棟2階	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の相談（オフィスアワー）
教務課	⑤ 1号館1階	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の相談（オフィスアワー）

② 学修支援センター

学修支援センターでは、英語・数学・物理のチューターが常に複数名待機しています。
クォータ科目の授業内容で分からないところが出てきたら、まずは気軽に訪れてみましょう。
履修相談や学修方法のアドバイスなども受けることができます。
学修相談時間は、平日の10:00～17:00です。

授業の疑問点を残したまま先に進むと、どんどん分からない所が増えていきます。
2年から専門科目を学ぶ上でも重要な基礎は、早い段階からしっかり固めておくよう習慣づけましょう。

